

国内クレジット認証委員会御中

審査結果概要書

平成 21 年 6 月 12 日

審査機関名 株式会社日本スマートエナジー

1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	ボイラーの高効率化と天然ガス化による温室効果ガス削減事業
排出削減事業者名	アルバック成膜株式会社
排出削減共同実施事業者名	株式会社三井住友銀行、三井住友ファイナンス&リース株式会社 (その他関連事業者名：株式会社サイサン)
事業実施場所	アルバック成膜本社・工場（埼玉県秩父市寺尾 2804 番地）
事業の概要	高効率のガスボイラーへの設備更新とA重油から天然ガスへの燃料転換により、二酸化炭素排出量を削減する。
排出削減量の計画	784 tCO ₂ /年 （事業実施期間合計 3,321tCO ₂ ）
国内クレジット 認証期間	開始日 2009年1月5日 終了予定日 2013年3月31日
排出削減方法論	方法論番号 001 ボイラーの更新

2. 審査結果

本事業は、排出削減事業の要件に適合している。

3. 実施した審査手続きの概要

審査手続きにより、以下の排出削減事業の認証の要件の妥当性を確認している。

要件	審査手続き
日本国内で実施されること	<p>事業計画が日本国内で実施されていることを、事業サイトを訪問して確認した。</p> <p>排出削減事業実施場所：アルバック成膜本社・工場</p>
追加性を有すること	<p>1) 本事業は、法的義務等の遵守のために計画されたものではなく、CO2 排出量の削減を目的として実施されたことを質問等により確認した。</p> <p>2) 本事業が実施できない場合には、既存の設備が継続的に使用されることを質問、関連資料の閲覧により確認している。本事業の投資回収年数計算について、入手した根拠資料、質問および検算により 5.7 年であることを確認した。投資回収年数の根拠データにつき、関連証憑と突合することにより正確性を確認している。</p> <p>3) 本事業者は、2001 年に ISO14001 の認証を取得し、2005 年には独自の品質・環境方針を制定するなど、かねてより環境保全への取り組みを行ってきた。投資回収年数が 5.7 年と長い本事業は、本事業者として通常の投資判断では投資決定に至ることが難しいが、その他関連事業者の株式会社サイサンから国内クレジット制度活用 of 提案を受けて、国内クレジットの認証により当社の環境意識の高さを更に裏付ける CSR 効果が期待できることや、国内クレジット売却益により投資回収年数の短縮化が図れることを認識し、これらの要因が投資決定の一因となったと判断できる。</p>
自主行動計画に参加していない者により行われること	<p>自主行動計画に参加していないことについては、排出削減事業者およびその他関連事業者への質問により、自主行動計画に参加していない事業者であることの確認を実施した。</p>
排出削減方法論に基づいて実施されること	<p>1) 本排出削減事業は、承認排出削減方法論 001「ボイラーの更新」に基づき排出削減量を計算しており、また、方法論の適用条件を満たしていることを個別に確認している。</p> <p>2) 既存設備の使用年数が法定耐用年数である 8 年の 2 倍 (16 年) を超えていないことを、質問・関連資料の閲覧によ</p>

	<p>り確認した。</p> <p>【方法論番号 001 ボイラーの更新】</p> <p>適用条件 1 については、設備の仕様書の確認、関係者への質問、検算により、高効率のボイラーへ更新することを確認している。</p> <p>適用条件 2 については、ボイラーの更新を行わなかった場合、既存のボイラーを継続して利用することができることを、事業実施前設備導入時期の確認、関連資料の閲覧及び関係者への質問等により、確認している。</p> <p>適用条件 3 については、更新後のボイラーで生産した蒸気又は温水は対象事業所にて自家消費されることを、関係者への質問および現地往査により確認している。</p> <p>2)その他、バウンダリの設定、ベースラインの設定、リーケージの特定、排出削減量、モニタリングの方法が適切であることについて、それぞれ質問と関連証憑により確認している。</p>
--	--

上記の詳細については、別紙「排出削減事業の要件についての確認事項一覧」を参照すること。

4. 特記事項

特になし

以上